

特集 松山の「たから」大集合!

「実は」日本一・全国初ものなど

本市は今年度、「たからみがき」をキーワードにまちづくりを進めます。「た」は旅の魅力、「か」は風早レトロタウン構想、「ら」は愛ランド里島構想、「み」は三津の朝市活性化、「が」は街路整備、「き」は気持ち。今回の特集では、本市が全国に誇れる日本一や全国初など、松山の「たから」を紹介します。



実は 市民1人1日当たり 5年連続最少

平成22年度の市民1人1日当たりのごみの排出量は、839・1kg。人口50万人以上の都市では、平成18年度から5年連続、日本一少ない都市となりました。(2位は広島市で841・8kg)

これは市民や事業所が、ごみに関する意識が非常に高いことを表しています。引き続き「ごみ排出量最少」を維持するため、ごみ排出量の抑制や分別の徹底などにご協力ください。特に可燃ごみのうち、生ごみは約半分を占めており、水分を多く含む生ごみの「確実な水切り」は、ごみ排出量の抑制に効果的な取り組みです。



桑原地区まちづくり協議会会長 土井 明文さん

近年、住民のごみへの意識は高くなってきていると思いますが、継続してごみ減量や分別を推進するには地域の皆さんの協力が必要です。まちづくり協議会を通して啓発活動に取り組んでいきたいです。



実は ご当地ナンバープレート 交付全国初

ご当地ナンバープレートの先駆けで今は見慣れた原動機付自転車の「雲型ナンバープレート」は、平成19年に本市が全国で初めて導入しました。形由来は、本市が進める「坂の上の雲」のまちづくりにちなんでいいます。また、この時に「松山市」の表記が、「道後・松山市」に変わりました。



かわいい形の「雲型ナンバープレート」



実は 「瀬戸内海」 全国初の国立公園指定



多美島、水軍口マン。世界が認める瀬戸内海の夕焼け

青い海、緑の島、白い砂浜の「瀬戸内海」は、私たちがいつもながめる穏やかな海です。この瀬戸内海は、昭和9年、全国で初めて雲仙や霧島とともに国立公園に指定されました。陸域・海域を含めると、日本一広大な国立公園です。これに先駆けること明治元年、瀬戸内海を訪れたドイツの地理学者リヒトホーフエン(シルクロードの命名者)は「こんな広大で優美な景色は世界のどこにもないであろう。いずれこの景色は世界の人に紹介をされ、称賛されるであろう」と言葉を残し、近代ツーリズムの祖といわれるトーマス・クックやシーボルトも瀬戸内海の景観を絶賛しました。

実は オールスターゲーム 地方球場2回目開催 全国初

夢の球宴と呼ばれる「プロ野球オールスターゲーム」。本年7月21日に坊っちゃんスタジアムで開催されますが、2002年にも同スタジアムで開催されており、地方球場で2回目の開催となるのは全国で初めてです。その誇りを胸に、松山から全国に元気を届けていきます。



2002年坊っちゃんスタジアムでのオールスターゲーム

実は かんきつ生産量日本一!

「かんきつ王国」といわれる愛媛県。本市においても、多くのかんきつが栽培されています。その中で松山市が生産量日本一を誇る品種を紹介いたします。(生産量のデータは、平成21年度の数値)

カラマンダリン

生産量779・4トンは、国内生産量(1647ト)の47・3割を占め日本一です。

4〜5月が旬のカラマンダリンは糖度と酸味のバランスが良く、トロピカルな雰囲気を持つかんきつです。まつやま農林水産物ブランドに認定されています。

紅まどんな

生産量150・6トンは、国内生産量(390・8ト)の38・5割を占め日本一です。

愛媛県でしか栽培されない紅まどんなは12月が旬。甘い香りとゼリーのような食感が人気の高級かんきつです。



紅まどんな

まつやま農林水産物ブランドに認定されています。

いよかん

生産量3万7140・3トンは、国内生産量(6万7753・3ト)の54・8割を占め日本一です。

1〜3月が旬のいよかんは、さわやかな香りとジューシーな味わいが特徴のかんきつです。宮内いよかんや大谷いよかんなど数種類の品種がありますが、県内ではほとんどが宮内いよかんです。

せとか

生産量881トンは、国内生産量(3105・6ト)の28・4割を占め日本一です。

2〜3月が旬のせとかは、かんきつ史上最高の芳香といわれる香りやトロリとろける食感、濃厚でジューシーな味わいで「みかんの大口」と称されます。まつやま農林水産物ブランドに認定されています。



心を込めて収穫する生産者

実は 全国の防災士の数最多自治体で

平成24年2月現在、本市の防災士の数は全国自治体で最多の1157人(2位は大分市の1001人)です。本市では自主防災組織の核とな



堀江地区 自主防災連合会 防災士 高岡 さおりさん

自分のできる地域貢献として防災士の資格を取りました。防災知識や災害への予防方法の啓発に取り組んでいます。これからは若い人にも資格を取ってほしいですね。



地域住民に防災知識や技術を教える防災士

る防災リーダー育成のため、平成17年度から自主防災組織の推薦を条件として、資格取得費用を全額公費負担しています。当時この制度は全国初でした。こうした取り組みにより地域に防災士が誕生し、まちの安全・安心につながっています。

実は 全国でも最大の規模 松山城「登り石垣」

県庁裏登城道から山頂へ連なる「登り石垣」。全国でも他に彦根城(滋賀県)と洲本城(兵庫県)にしかなく、中でも松山城の登り石垣は最大の規模です。



堀之内から見える「登り石垣」

登り石垣は山腹から侵入する敵を阻止する目的があり、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に日本軍が朝鮮半島に築いた城と関連性があるといわれています。



松山観光ボランティアガイドの会 久保 喜久子さん

登り石垣は県庁側から見ると、北側にもありました。その一部は乾門近くに残っています。松山城の素晴らしさは天守だけではなく、石垣や他の建築物などを見ると気がきますよ。

実は 日本で唯一が道後に、皇室専用浴場「又新殿」



飛田 歩乃佳さん (湯築小6年)



香川県産庵治石を使った浴槽

玉座の間(奥が武者隠しの間)

学校の授業でまぢめぐりをした時に、又新殿が日本で一つだけの皇室専用のお風呂と聞いて道後の歴史に興味を湧きました。これからも道後温泉本館を大切に残していきたいです。

明治27年に建てられた道後温泉本館。本館には全国で唯一の皇室専用浴場「又新殿」があります。又新殿は、明治32年に完成。前室、御居間、玉座の間と続き、警護の人々が控える武者隠しの間があります。浴槽は御影石の中で最高とされる香川県産の庵治石を使用しています。昭和25年には、昭和天皇がお使いになりました。

実は 市民1人1日当たり 3年連続最少 上水道給水量

平成22年度の市民1人1日当たりの上水道給水量は、294リットル。中核市では、平成20年度から3年連続、日本一少ない都市となりました。(2位は柏市で297リットル)



これは、市民の皆さんの高い節水意識と協力などによるものです。今後も限りある水資源を大切に使いましょう。